

幼稚園の圖書及び手工に就いて (一)

——お仕事に對する統計的觀察——

八王子幼稚園長 伊 藤 堅 逸

目 次

はしがき

一、仕事に對する幼児の興味

三、幼児に興味ある仕事
四、むすび

二、仕事ぶり

はしがき

此所に述べんごしてゐるものは圖書及び手工に對する全般的のものではなくして極めて狭い範圍の觀察に過ぎない。

私は昭和五年以來現在まで五ヶ年にわたり圖書及手工を幼児の自由課題とし、種目の選擇も亦幼児の自由にまかせるところにしてゐる。そしてそれを實施するために幼児一人々々の「保育カード」なるものを作つて、それに幼児が選擇するものを日附と共に一々記入するこゝが出来るやうにし、そしてそれは一ヶ月毎に取り替へるやうにしたのである。それでは其カードを統計的に調査して見たのであるが其結果は幾分か幼稚園の教育上參考となるべきものがあるやうに思はれるので、こゝにそれを發表して諸家の研究に資するこゝとした次第である。

一、仕事に對する幼児の興味

幼稚園で所謂「お仕事」云ふのは圖書及び手工の總稱である。故にこゝに仕事云ふのは遊びと全然區別した意味のも

のでないこゝは豫め承知を願ひたい。併し若し遊びの中に仕事に類するものがあるこゝすれば圖書及び手工は將にそれにあたるものであるから、こゝには仕事云ふ言葉をそのまゝ使用したのである。

さて、仕事に對する幼児の興味であるが、之は幼児が仕事をする数の大小によつて知ることが出来る。即ち多く仕事をするものほぎ多く興味を有し、少なく仕事をするものほぎ興味を餘り有してゐないものこゝ見るのである。それで私は各兒の仕事平均回数を月毎に又年毎に求めて見たのである。だからそれによつて仕事に對する興味のあるものこゝないものこゝが明かに見られ、月によつて興味の増減する有様や一年を通じての幼児が最も多く仕事に興味をもつたかなぎ云ふさうなこゝが明かに見られるのである。従つて又幼児の個性的相異を見るこゝも出来るのである。

次に掲げた表は一年を通じて各兒が得た仕事の平均回数表である。一年を通じて云ふてもカードを使用しない時期があるから其期間は統計には表はれない。回数云ふのは仕事時間(毎日一時間餘あり)内に、例へば圖書をしたならそれで其日の仕事は一回したこゝになり、若し圖書の外に粘土細工をもしたこゝすれば其日の仕事回数は二回とするものである。そして仕事をした時間の長短は敢て問はない。平均回数云ふのは、然うして計算した回数の實数をカード使用期間内に

第一表

(一)昭和五年度

組	大 き い 組												全部平均													
	男						女																			
人員番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
一日仕事本平均	1.20	0.81	2.1.	0.81	2.07	0.80	0.80	0.80	0.81.	0.90	0.91	4.0	0.90	0.91.	1.51	1.1	2.1	1.0	0.90	0.70	0.91.	1.				

組	小 さ い 組										大 き い 組										全部の平均	本年度總平均			
	男					女					男					女									
人員番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	平均	全部の平均	0.7
仕事平 均	0.4	0.3	0.5	0.1	0.3	0.8	0.8	0.8	0.8	0.6	0.1	0.6	0.8	0.9	0.9	1.4	1.4	0.9	0.9	0.7	0.8	0.6	1.1	0.8	0.7

(三)昭和八年度

組	大 き い 組										小 さ い 組										全部の平均	本年度總平均										
	男					女					男					女																
人員番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	平均	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	平均	全部の平均	1.1
仕事平 均	1.2	1.1	0.8	1.4	1.3	0.9	1.1	1.0	0.9	0.9	1.1	1.4	1.2	1.1	1.2	1.4	1.3	1.1	1.1	1.3	1.1	1.5	1.2	1.4	0.7	1.2	1.2	1.1	1.2	1.1	1.1	

組	小 さ い 組										大 き い 組										全部の平均	本年度總平均					
	男					女					男					女											
人員番 號	29	30	31	32	33	34	35	36	37	平均	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	平均	全部の平均	1.1
仕事平 均	1.1	1.1	1.0	0.7	0.9	0.9	1.1	0.9	0.9	0.8	1.0	0.7	1.2	1.1	0.8	1.0	0.7	1.2	0.9	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1

於ける出席數で除したものである。それ故、平均回數は一ヶ月の場合でも一ヶ月の場合でも一ヶ月の場合でも常に一日平均回數となるわけである。そこで其數字は直ちに圖畫及び手工(即ち仕事)に對する興味を表はすものである。

幼稚園で仕事を自由にさせる事がよいかどうか云ふことは今暫らく別問題として、若し定められた仕事の時間に圖畫

なり手工なりを厭應なく劃一的にさせるべきすれば、そして仕事の時間が一日に一回ありべきれば仕事の回数は一ヶ月でも一ヶ月でも常に一になるのであるが、仕事が全然幼児の自由になれば果してこの程度まで仕事に興味を以つてするか、此の疑問に對し右に掲げた四年間にわたる年度毎の表は明かな解答を與へる。即ち其表を見るに殆んど仕事をしない、例へば平均〇・三以下の者も五年度に一人、六年度に五人、七年度に六人ある。八年度には一人もない。故に四年間で百分比にして見るに三・一が平均〇・三以下であつたことなるから此の程度の者は極めて僅かである。次に〇・七以下〇・四までの者は云ふに、之れは五年度に五人、六年度に十人、七年度に十三人あつて八年度には四人ある。故に全體で三十二人である。之れを百分比にすれば一八・三九である。されば〇・七以下〇までのものを合算すれば二一・四九なる全體の二劃一分五厘は餘り仕事に興味をもつてゐないものと云へるであらう。残りの七劃七分五厘は〇・八以上のもので仕事に相當大きな興味をもつてゐるものと云へる。其中の一八・三九%、即ち一劃八分四厘は一・二以上のもので特に仕事好きなるものであるから普通に興味をもつてゐるものは一・一以下〇・八までのもので五劃九分であることになる。

尤も年度によつて之らの割合は可成り相異して居る。〇・八以上のものは五年度には八劃五分で六年度には六劃四分三厘、七年度には五劃三分七厘となつてゐるが八年度には九劃二分二厘となつてゐる。各年度の割合は皆各々相異したものであるが四年間の割合としてはさきに擧げたやうに〇・八以上は七七・五になるのである。今假りに之れを標準として考へるなら自由主義でなく劃一的に仕事をさせる場合二劃二分五厘の幼児には可成仕事を強いてゐることとなるわけである。そして一劃八分四厘のものは普通以上に仕事をしたいのであるから之れらのものにも不満足を與へることとなり、結局五劃九分の者のみに満足を與へることになるであらう。次に掲ぐる表は前の表を整理したものである。

仕事に對する興味は男女によりて明かな相異を示してゐるものとやうである。右の表で見るに〇・八以上のものゝ割合

據 日 報

(ア) 五年度

	二以上		一		〇		人員	
	上	下	上	下	上	下	上	下
男	3 2 6		1		1		12	
	91.67%							
	1 1 0		1		2		5	
40.0%								
女	3 3 5		1		1		12	
	91.67%							
	2 3 5				1		11	
90.91%								
計	9 9 16		3		2		40	
85%								

(イ) 六年度

	二以上		一		〇		人員	
	上	下	上	下	上	下	上	下
男	0 2 5		0		3		10	
	70.0%							
	1 0 1		3		1		6	
33.33%								
女	2 7 4		1		0		18	
	72.22%							
	0 1 4		1		1		8	
62.5%								
計	3 10 14		5		5		42	
64.29%								

(ウ) 七年度

	二以上		一		〇		人員	
	上	下	上	下	上	下	上	下
男	0 2 3		3		1		10	
	50.0%							
	0 0 4		1		2		11	
36.0%								
女	0 1 4		3		1		10	
	50.0%							
	2 0 6		2				10	
80.0%								
計	2 3 17		9		4		41	
53.66%								

(エ) 八年度

	二以上		一		〇		人員	
	上	下	上	下	上	下	上	下
男	5 5 4		0				14	
	100%							
	0 5 3		1		1		9	
88.89%								
女	10 3 0		1				14	
	92.86%							
	3 6 3		2				14	
85.71%								
計	18 19 10		4		0		51	
92.16%								

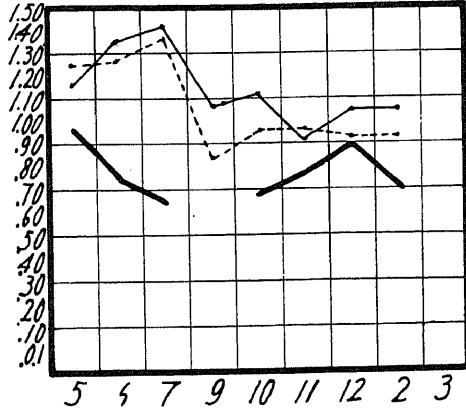
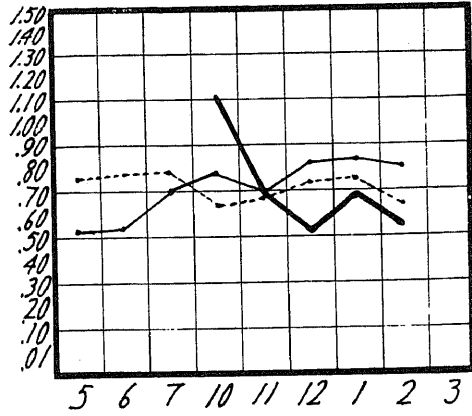
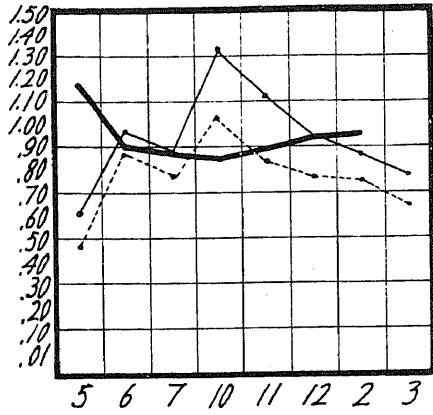
は五年度六年度七年度の三年度に於て男より女の方が遙かに大きな割合を示してゐる。たゞ八年度に於ては女よりも男の方が大きな割合を示してゐるが、其差は極く僅かである。若し最初に掲げた平均回数表に於て見るなら大きな組は男一・一、女一・二、小さな組では男〇・九、女一・三となつてゐるから平均回数から云へば矢張り女の方が男よりも多くの仕事をしてゐるこゝになる。だから幼稚園の手工は男よりも女に興味が多くあるものゝ考へられる。實際見てゐるこゝ男兒は女兒よりも活動的で室内に落付いて手工をするよりも寧ろ戸外に出て氣まゝに遊ぶのを好むやうである。(後に掲げる第三表参照)

仕事に對する興味の大小は又年齢によりても相異してゐるやうである。年齢の大きいものは年齢の小さなものよりも興味が多し云へる。第二表(ハ)の女兒の外は男女共に〇・八以上の仕事をしてゐるものは大きい組のものが小さい組のものよりも大きくなつてゐる。第一表に於て見ても平均回数は(ハ)の女兒の外は皆小さい組のものが大きい組のものよりも少くなつてゐるこゝがわかる。之によつて年齢の大きいものが年齢の小さいものよりも仕事を多くするこゝ云ふこゝが解ると思ふ、即ち換言せば年齢の大きいものが年齢の小さいものよりも仕事に對する興味を多くもつてゐるこゝ云へるのである。

次に仕事に對する興味が時期と共にさうなるかを見やう。時期に云へば自然的な時期が其一つである。之は季節名又は月名で云ふ時期で、此の外に事情に伴ふ時期がある。例へば入園當時であるか又は今まで小さい者の組に居つたのが大きい者の組即ち兄さん姉さんの組になつたか云ふやうなつまり或る事情に伴ふ時期である。

前から幼稚園に入園して居て新入園者を迎へ然かも兄さん姉さんの組に入れられた時期には當分は仕事の回数は大抵減少するものゝ見られる。併しそれは當分であつて又再び増加する。それは多分新しい多くのお友達を迎へた喜びが以前から幼稚園に来て居たこゝ云ふほこらしさで一時心の落付きが失はれる爲めであらう。新入園者は入園當時は仕事の回数が比較的多い、これは幼稚園がめづらしいためであらう。併し慣れる従つて以前から入園してゐるものゝは反對に仕事の回数

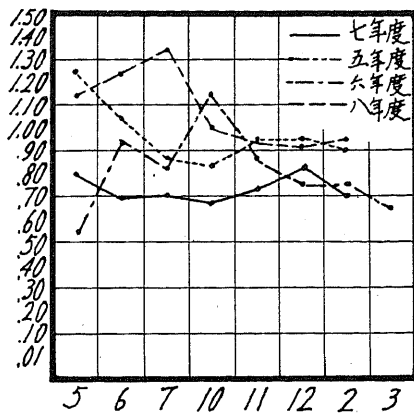
は幾分か少くなる様子に見へる。左は前から入るもの、新しく入園したものとの間に表はれる相異を示した曲線である。實線は前から入るもの、點線は新しく入園したものの、太線は前から入る者の前年度のものである。



之れを見るべきの年度に於ても前から入るものの方が新しく入園したものよりも多く仕事をするこゝが一目して明かに知られる。そして七年度でも八年度でも新入園者が前から入る者よりも最初は多く仕事をしてゐる。六年度では趣を異にしてゐるが統計は五月からで四月の統計がない爲めにこれのみで何事も明かに云ふ事は出来ないが實際的には前から入るものよりも新しく入園した者の方が最初は多く仕事に興味をもつやうである。

次に自然的時期に仕事に對する興味との關係を見るこゝにする。左は各年度に於ける仕事の總平均回數を曲線にて表

はし月により増減する有様を示したものである。之れを見るに七年度と五年度とは他の二年度と全く變つた状態を示して



る。始め盛んに仕事をしてゐた年度には一時倦怠時期があつて又幾分か増加する傾向を示すが、始めぼつ／＼に仕事に取りかゝつた年度に於てはやがて非常な興味が出て来て盛んに仕事をするやうになる。急激的に仕事に取りかゝるか漸次的に取りかゝるかは年度によつて異つて居る。十月頃の暖い季節に於ては曲線が年度によりて甚だしい高低の相異を示して互に入り交はつてゐる状態であるが十一月頃から各線互に相接近して落付いた状態を示してゐる。これは氣温に對する心理的状态が其原因をなしてゐるに見なければならぬ。故に此の曲線によつて幼児が如何に氣温の支配をうけるかと略々推察し得られるであらう。

以上で幼児の仕事に對する興味に就いては今迄に得た材料での觀察を大體終へたのであるが、今一つ智能に仕事に對する興味との關係について述べて此の節を終ることにする。

前にも述べたやうに年齢に仕事に對する興味との關係は、幼稚園では、年齢の多い者が少ない者よりか仕事に對する興味を多くもつてゐるにみられる。此のことは次ぎの第三表によつて一層明かである。所が之れを若し智能年齢から見ると果してさうなるであらうか。此の點を明かにする爲めに私は昭和八年度に於て智能検査を行つた、併し或る者は検査室に来る事を厭がつたので結局全員五十一名の内四十一名だけの検査をすることが出来た。それで其四十一名に就いて先づ生活年齢と仕事に對する興味との關係を見るために作つたのが右に掲げた第三表である。更に又智能年齢と仕事に對する興

第 三 表

生活年齢	3		4		5		6		7		8	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員			2	3	3	6	12	12	1	2		
仕事平均回数			0.95	0.97	0.93	0.93	1.04	1.10	0.90	1.41		
男女平均			0.97		0.93		1.07		1.24			

第 四 表

智能年齢	3		4		5		6		7		8	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員		2	2	1	6	3	7	8	2	9	1	
仕事平均指数		1.08	0.95	0.96	0.96	1.20	0.97	0.90	1.16	1.17	1.21	
男女平均	1.08		0.96		1.04		0.93		1.17		1.21	

數百二十から九十までの間が比較的仕事が多なくなつてゐるのを見るに仕事に對する興味の一が多いのは此の間のものである。併し勿論之れだけの材料ではまだ斷定的なことを云ふ事は出来ない。第五表は年齢は問はず唯智能指數に仕事回数

味との關係を見るために作つたものが左の第四表である。これによつて見るに智能年齢では年齢の進むと共に仕事に對する興味が多くなることは云へない。男女別々に見ても男兒の方では漸次増加してはゐるが其増加する數が餘りに小さ過ぎる。女兒の方は中途で全くくづれてしまつてゐる。して見れば智能年齢に仕事に對する興味との關係は生活年齢に仕事に對する興味との關係の如く相關的な關係がないと云へる。云ひ換へるなら仕事に對する興味は智能年齢よりも生活年齢により多く關係を有してゐるものと云ひ得るのである。更に進んで智能に仕事に對する興味を見る爲めに智能指數に仕事の平均回数を分配して見たのであるが、左の第五表は即ちそれである。これによつて見るに智能の高いもの必ずしも仕事の興味が多くない、其反對に智能が低いから云ふて必ずしも仕事の興味が少くない。智能指

第 五 表

智能 回数	140		130		120		110		100		90		80		70		
	性	女	男	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人員		1	1	4	4	4	2	6	7	3	3	3	1	1			1
仕事 平均		0.72	1.36	0.87	1.06	1.04	0.93	1.19	0.96	1.13	1.01	1.18	0.90	0.96			1.03
男女 平均		0.72		0.92		1.05		1.15		0.99		1.10		0.91			1.03

第 六 表

智能 指数	140		130		120		110		100		90		80		70		
	性	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人員				1		3	4		3	5	2	3	2		1		
仕事 回数				1.38		1.09	1.04		1.11	0.97	1.12	1.02	1.21		0.96		
男女 平均				1.38		1.06		1.11		1.01		1.10		0.96			

を分配したのである。故に年齢から云へば七歳から四歳までのものが雑然と入り交つてゐるわけである。併し前に見た如く年齢と仕事に對する興味は密接な關係を有してゐる。それ故同じ年齢のものゝみの仕事回数を智能指数に分配して見たらさうであらうか。智能検査をした四十一名の中六歳のが最も多く二十四人ある。それで此の二十四人の仕事回数を智能指数に分配して左の第六表を得た、併し之れには人員の分配が不揃であるから之れを以つて正確なものを見る事は出来ないが、併し仕事に對する興味はこれによつて見ても智能と餘り關係がないことだけは明かに知られると思ふ。

智能と仕事に對する興味との關係については材料が僅かであるからまだ確定的なことは云へないかも知れない。併し仕事に對する興味は年齢に多く關係して智能に餘り關係しないものであることは略々以上の研究に於て觀察し得られることと思ふ。